

その昔、三山詣りは、心身の不浄を払い、白装束に身を固めた行人様として参拝に向かったのですが、大高持や商家の相続者となる男子が、15歳に達すると初詣りが行われました。いわゆる「お山詣り」と言われるものです。

修験者、法印は長い杖をつき、足駄を履き、白装束に法螺貝を吹いて先導したという。初詣りの折は、一週間前から夕方になると水垢離を取り、往路各地の集落では道路に並んだ村人は、「お行人さま、銭まかせーい」と叫ぶので、何がしかの文銭を功德のために撒き銭を強いられた。この文銭は、塩で揉み、不浄を払うとともに、光沢のある銭に磨いたものでした。

湯殿山詣りが、この町の人々だけでなく、奥州一円、関東にまで拡大したのは、享保年間の頃の様子です。特に、享保18年（1733年）の丑年御縁年には、各地から参詣者が集まり、早魃不作に

もかわならず、白岩から奥の岩根沢村、本道寺村界限では10年は寝て暮らせる程の収入があったといわれています（「大井沢村文書」より）。

どれほどの人が参詣に訪れたのか、正確にはわかりませんが、通常の年で3万人、丑年の御縁年は10万人もあっただろうと伝えられています。これは、宿坊のことで、雑魚寝は当たり前のこと、その食料たるや米、際のもの、漬物、味噌、醤油、器、箸の類まで含めれば、品数、数量とも莫大な準備が必要でした。

【用語の説明】
 行人…修行する人。行者。
 法印…山伏の異称。
 足駄…下駄の一種。
 水垢離…神仏に祈願する前に、水を浴びて身を清め、けがれを取り除いて心身を清浄にすること。みそぎ。

※引用 中山町史 中巻
 第10章第1節 庶民と信仰

私たち地域おこし協力隊です！ No.15



柏倉家でてるてる坊主



まえだ

こんにちは。梅雨に入ってじめじめし始めましたね。7月6日(土)・7日(日)、旧柏倉九左衛門家の前で紅花まつりが、合わせて7月5日(金)～7月15日(月)、旧柏倉九左衛門家の特別公開も行われました。とは言っても、この原稿を書いている時はまだ行われる前なのです…。

今年は国の重要文化財に答申があったという嬉しいニュースもありました。ぜひこの機会に、普段は公開していない柏倉家の中から、紅花と合わせて外から、両方から見ていただけたらと思い、当日スタッフや事前準備など、ちょこちょこ協力隊もお手伝いさせていただきました。（実はポスターやチラシなんかも協力隊が作らせていただきました。詳しくはチラシを見てね♡）8月15日号には、これらの様子をお伝えできると思います。お楽しみに！



さasaki



紅花まつりにむけて杭打ち作業